



今月の主な目次

- 今年も収穫がたのしみ! 牧草・トウモロコシサイレージに対するアクレモ効果
- 暑熱時の飼養管理 今年の暑熱対策は万全ですか
- 釧路編・酪農業の主役を大切にしよう
- 札幌編・高泌乳牛でも連産長命なり
- 除草剤の決め手ラウンドアップ

時の話題

荒廃草地を 若々しく蘇らせよう

草地を造成してからある程度年数が経過しますと、草地の立地環境条件、構成草種、草地管理の良否などにもよりますが、エゾノギシギシなどの強害雑草が広がったり、雪腐病などの病害が発生したりして裸地が目立つようになり、さらに放牧地では、不食過繁地が出来たりして草地の生産力も利用率も落ちてきます。このような状況になりますと種子を追播したり肥料を多量に施しても、なかなか元のようには生産力は回復しませんので、荒廃した草地を耕起し、新たに種子を播いて草地を作り直す必要があります。

社団法人日本草地畜産協会では、このように生産力の落ちた草地の高位生産草地への転換を促進するため、全国にモデル地区を設けて草地更新、肥培管理の徹底、優良品種の導入等に要する経費の一部を助成するとともに、土壌や生産された飼料及び草地の管理・利用に関する情報を収集・分析して技術指導を行う、「草地生産性向上対策事業」を平成二年度から実施しています。平成十一年度までにこの事業によって転換された北海道の草地面積の合計は約一二、〇〇〇ha、受益農家数は約五、三〇〇戸に達しています。

この事業の助成を受けた豊富町のNさんの草地

では、数種の雑草が入るとともに裸地が増え生産力が低下していましたが、それを耕起して新たにチモシーとアルファルファを播種したところ、播種翌年にはha当たり五二七、三年目には五六七の収量になり、それもタンパク質含量の高い高品質牧草が収穫できるようになりました。このような優良事例は道内各地で見られます。また、白滝村のMさんは、裸地の広がった草地をアルファルファのみの採草地に転換し、四八七の収穫をあげておられます。

この事業に用いる牧草品種については、北海道の場合は、北海道知事の認定を受けた「北海道牧草・飼料作物優良品種」に限定されており、かつ、品質証明付きのものであることが義務付けられています。最近、主要草種については育種研究がすすみ、例えば、チモシーの耐倒伏性品種やアルファルファのバーティシリウム萎凋病抵抗性品種など続々と新品種が登場しています。性能の優れた新品種の種子は多少高価ですが、永年にわたってその性能を発揮することを考えると、むしろお買い得です。「優良品種ほど安価な技術はない」と言われる所以です。

この助成事業についての詳しいことは、(社)北海道草地協会(札幌市中央区大通り西7丁目北海道酒造会館ビル4階、電話:011-2221-8279)にお問合せ下さい。

(社団法人日本草地畜産協会・川端習太郎)